

今後の活動内容についての委員からのご意見

部会とりまとめの中で議論が必要な事項（河川管理者からの質問以外で）

必要な資料の入手をサポートしてもらえる体制がある場合にはWGの設置はよいことであると思う。

（川端委員）

琵琶湖固有の問題で判断が難しいものは先送りされていると思われる。

例えば、琵琶湖水質、沿岸・湖底地形、堆積環境と河川（琵琶湖）開発・管理の因果関係を、ダム建設・管理や水位操作の功罪の視点から判断するための議論が必要。

もう一点は、良質な水資源を近畿に供給する立場にある、琵琶湖とその集水域住民の水環境学習の支援のありかた。

（三田村委員）

他省庁等との連携について

今後の淀川水系の管理を進めていく上で、（1）川や湖の立場から農林水産省や環境省等に対して何を求めていくのか、（2）NGO等の参画によって県や市町村、自治会等それぞれのレベルの行政機関の役割分担の理念どのように転換するのか、といった事柄について、具体的な議論が必要と感じています。

（村上委員）

WGに関するご意見

必要な資料の入手をサポートしてもらえる体制がある場合にはWGの設置はよいことであると思う。

私が感心のある項目は以下の通りです。

- ・ダム・貯水地WG - 特にダム・貯水地計画を撤回した場合の社会的、経済的、文化的影響。
- ・水質汚濁WG - 農業・生活雑廃水と水質汚濁との関係。
- ・沿岸WG - 内湖の生態的機能。

（川端委員）

1. WGに関する意見1

ダム問題については部会毎に具体的対象について議論する必要があると以前から考えておりました。「ダム問題」集中勉強会を各部会で同時期に行い、それを本委員会で集約する形で取りまとめて欲しい。

丹生ダムに関しては過日の視察のみに止めるのではなく、関連資料を紐解いて協議する場が必要で、周辺環境への影響、琵琶湖への影響を工事作業中と完成の後に分けて充分検討し、それが国土・国民および県民・地元民、さらには水資源の保全などの面にとどまらず、果たして福利（Welfare）に連がるのかどうか、一部の資本の利益に止まるものなら早く中止させるべきではないかと案ずる（資本側のマイナス防止にも）。6/17の部会に提供され

た南浜漁協からの関係資料を拝見して案じていたことが相当重大なことだとの感を強くしました。丹生ダムおよびスキー場建設を含めた姉川集水域保全問題のWGまたは特別部会を願いたい。

2. WGに関する意見2

琵琶湖流入河川のあり方（今後の河川改修の内容）

3. WGに関する意見3

琵琶湖の利水について（水質保全・生物多様性の保全を図りうる利水の条件）

（倉田委員）

琵琶湖部会ワーキンググループ（案）

丹生ダム：部会最大の課題

水位管理：部会の重要責任課題

水質保全：河川と琵琶湖の重要課題

（寺川委員）

琵琶湖固有の問題で判断が難しいものは先送りされていると思われる。

例えば、琵琶湖水質、沿岸・湖底地形、堆積環境と河川（琵琶湖）開発・管理の因果関係を、ダム建設・管理や水位操作の功罪の視点から判断するための議論が必要。

もう一点は、良質な水資源を近畿に供給する立場にある、琵琶湖とその集水域住民の水環境学習の支援のありかた。

（三田村委員）

琵琶湖および河川の利活用における住民参加型合意形成のあり方

これまでの議論では「住民の参加」についての議論が理念論で終始している感が強く、実際の合意形成をどのように行っていくのかが見えていない。河川管理への住民参加、真の意味での住民主導型合意形成といったものが、どのような形で実践できるかを議論したい。

すでに滋賀県内では、市民の側からも（自然環境ネット、湖沼ネット、琵琶湖ラムサール研究会など）行政の側からも（淡海川づくり会議、ラムサール協議会など）、また博物館等でもさまざまな試みが行われている。これらの実情と課題を明らかにした上で、これらの取り組みを有機的に連携させて効果的な住民参加を可能にしていく方策を練りたい。

こうした一見普遍的な課題をわざわざ部会で行う意義としては、地域によって社会システムが異なっており、淀川流域全体を同じやり方で進めるのは難しいと思うからである。特に委員会レベルでは湖の上流と下流での合意形成についての議論が大枠を閉めると思うので、ここでは県内の流入河川および琵琶湖沿岸での合意形成について議論をしたい。

（村上委員）

一般意見聴取に関するご意見

住民意見聴取法

決め手は無いと思うので様々な方法をこまめに試みるのが肝要だと思う。

- 例
- ・意見募集についての新聞、テレビによる広報。
 - ・現地に出向いての座談会。
 - ・小、中、高校へ意見募集のピラを配付。
 - ・NGO への協力依頼。

(川端委員)

意見聴取の試み

- ・これまで意見を出していただいた方の中から、良い意見を出していただいた何名かを選んで発表してもらう。
- ・人選は委員に選んでもらう。これまでの意見から 5 名ほど選んでいただき、多い方から決めるが、内容などから最終調整は部会長・副部会長で行う。
- ・発言時間 一人 10 ~ 15 分
- ・日時は土、日曜日などの休日の半日 (13 : 30 ~ 16 : 30)
- ・公開
- ・一般参加も募る
- ・会場は大津または草津市内あたり

(寺川委員)

一般意見聴取の件ですが、これまで出てきた意見の中には、勿論全てではありませんが、意見にかなり偏りがある方もおられます。少なくとも、琵琶湖淀川水系に対し、何らかの利害関係があると思われる方々と、そうでない方々との意見を同列に扱うのは問題があるのではないかとおもいます。また琵琶湖水系の現状についての情報が市民に十分伝わっているとは思えませんが、一般の人々の理解が十分とはいえない状況での意見聴取は、本当の意味での意見聴取といえるのかどうか、疑問を感じます。

(西野委員)

これからの環境問題の克服には先住民の知恵を重視すべきであるという。住民代表を行政者と考えるのではなく、素朴に生活している人から河川管理のありかたの本音を語る場を用意すべき。その場合、生活弱者の意見も集約する必要があるため、なんらかの方策を考えなければならない。その方法は、問題あるいは地域によってさまざまであろう。

(三田村委員)

とりあえず考えられることは、オーソドックスではあるが河川管理者から新管理計画の素案が出た段階で広くパブリックコメントを求めること(当然にその用意をされているかと思いますが)。

これでは河川にあまり関心の高くない人は参加できない、という批判はあろうが、現在部会で行われている議論は、一般の人たちには縁遠く感じられると思うので、いきなりこれをアウトプットしてもレスポンスは少ないと思う。

(村上委員)